

肝臓は沈黙の臓器と言われるように、重い病気となるまでは症状がありません。会社の健康診断、人間ドック、別の病気で血液検査を受けた時などに偶然肝機能異常が発見されることがほとんどです。肝臓を守るためには、定期的な肝機能チェックが欠かせません。

会社の健康診断で、肝機能異常を指摘されました。特に症状もなく元気ですので、このまま放置しておいていいですか？

A 肝臓病は自覚症状がないことが多いため、発見が遅れることがしばしばあります。肝臓が悪くても、よほどの重症でないかぎり症状が出ることはありません。また軽い肝機能異常でも重大な病気が潜んでいることがありますので、医療機関で精密検査を受けられることをお勧めします。

どのような病気で肝機能が悪くなるのですか？

A 肝機能異常を来す病気には、様々なものがあります。健康診断で最も多いのは、最近よく耳にする、メタボリック症候群の仲間である脂肪肝です。脂肪肝は内臓脂肪の量と深い関係があり、最近急に体重が増えてズボンがきつくなったというような場合によくみられます。以前、脂肪肝は良性の病気で進行していくことはないと思われていましたが、最近は脂肪性肝炎となり肝硬変、肝がんへと進行していく場合があることが明らかとなりました。脂肪肝も油断は禁物です。次に多いのがアルコール性肝障害です。日本酒

にして男性で3合以上、女性で2合以上を毎日飲み続けると肝障害が起きてきます。血液検査でγ-GTP値が高くなるのが特徴です。その他では、ウイルス性肝炎、特にC型肝炎があります。C型肝炎は日本人の100人に1~2人の頻度と推定され、21世紀の国民病と言われています。やはり初期では症状がないため、健康診断で偶然みつかることが多いようです。その他の原因としては、最近健康食品を摂られる方が多く、これによる肝障害が増えています。稀には、肝腫瘍が原因であることもあります。

どのような検査を受けるのですか？

A 肝臓の検査には、血液検査とエコーやCTなどの画像検査があります。多くの場合、これらの外来で行える検査で診断ができます。しかし診断が難しい場合は、肝生検という検査が必要となります。これは、局所麻酔をして細い針を肝臓に刺し、肝臓の組織を採取する検査です。検査は10分ほど終わりますが、2~3日の入院が必要です。

どのような治療をするのですか？

A 原因によって異なります。脂肪肝は、体重を減らすことが基本です。体重が減ると内臓脂肪が少なくなり、それだけで肝機能が良くなります。体重をへらす目安は、現在の体重の6%程度です。どうしても体重が減らない場合は、薬物治療を行います。アルコール性肝障害は、禁酒以外有効な治療はありません。アルコールは、1日2合以下で、休肝日をつくるなど適度に飲まれれば問題ないのですが、肝障害がおきてしまった場合は禁酒せざるを得ません。軽い肝障害であれば、禁酒により肝機能はすぐに良くなります。C型肝炎の場合は専門的な治療が必要です。C型肝炎は、放置すると高率に肝硬変、肝がんへ進展しますので、できるだけ早く治療を受ける必要があります。現在の治療はインターフェロン治療が中心で、ウイルスのタイプや量により異なりますが、全体で約6割以上の方に治療が期待できます。現在インターフェロン治療の医療費助成が行われており、治療が受けやすくなっています。

